

アメリカ合衆国カルタをつくろう

千葉県公立小学校 教諭

1 はじめに

第6学年の学習では、世界の国々に目を向け、日本と関係の深い国を調べることにより、日本と世界の国々とのつながりを理解し、ともに協力し合い助け合う気持ちを育てていく。アメリカ合衆国は、我が国と歴史的にも文化的にも大変つながりが深い国である。第2位の貿易相手国として、日用品の利用を通して子どもたちの生活にも深く関わっている。ここではアメリカ合衆国を概観する際に地図を活用し、そこから得られる情報から様々なキャッチコピーを考え、カルタをつくっていく活動を考えた。

2 アメリカ合衆国を概観する

身のまわりの工業製品や食料品、また、楽しみの一つであるテーマパークなど、アメリカ合衆国生まれであるものが多い。実際にアメリカ合衆国を概観していくためには二つの資料が有効と考える。一つは統計資料である。はじめに『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』（以下地図帳）のp.65を開き、数値からアメリカ合衆国を知る。「面積が広い。」「人口が多い。日本の2倍だ。」「食料を輸出している。」など、日本のそれと比較しながら発見していく。その後、p.55～56の「アメリカ合衆国とそのまわり」を見ると、大都市の数々や同緯度同縮尺の日本と重ね合わせながらその大きさを実感していく。1時間使ってじっくり眺めさせたい。「東北地方と変わらない緯度だから寒いのでは?」「フロリダは沖縄より南だ。」など、既習事項をもとにした気づきも見られる。その後、各地の特産に注目していく。

3 キャッチコピーでカルタをつくる

そして、アメリカ合衆国のカルタづくりに

挑戦する。最初は見慣れない土地の形とカタカナの州名や都市名にとまどう子どもたちであるが、絵で示された特産品が日本と関わりの深いものとわかると親近感をもち始めるだろう。そして、キャッチコピーをどんどん考えさせる。「おいしい大豆はアイオワ産」など、日本人が好む食料を大規模に生産することを示すもの。「世界が集まる国連本部ニューヨークにあり」など、国際関係に関連するもの。「木の上からトムソーヤが眺めるミシシッピ川」など、文学作品を紹介するもの。子どもたちはこの地図から実に多くの「アメリカ合衆国」にふれることができる。

カルタに絵を描いた取り札と読み札が完成すれば「カルタ大会」の開幕。ゲームで楽しみながらアメリカ合衆国についての社会事象を広く浅く知ることができる。新たな学習課題を立てて追究していくことも可能である。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.55

4 おわりに

目的をもって資料を読み取ることも大切だが、ある資料を漠然と眺めているうちに多くの発見ができることも地図を見る楽しさである。子どもたちにそのような楽しさを味わわせる時間をもたせることが重要であろう。